

行財政改革に関する今後の検討課題について

1. 行財政改革前期実施計画の財政効果目標額の検討

(1) 財政効果目標額の設定について

- ・令和6年4月に本市の今後10年間の行財政改革の指針となる「第3次出雲市行財政改革大綱」を定めるとともに、この具体的な取組を記載した「出雲市行財政改革前期実施計画」を策定し、現在取組を進めています。
- ・実施計画の期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とし、この間の財政効果目標額を令和3年度に策定した財政計画から8億円と設定しました。

< 計画期間中の財政収支・・・令和3年度策定の財政計画から抜粋 >

(単位：百万円)

年度	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	合計
歳入①	78,998	78,249	78,140	77,480	75,778	388,645
歳出②	79,138	78,373	78,266	77,705	75,920	389,402
差引①－②	△140	△124	△126	△225	△142	△757
基金繰入額 (収支不足額)	140	124	126	225	142	757

※令和6年度から令和10年度までの5年間で約7億6千万円の収支不足を見込んでおり、この不足額は、財政調整基金及び減債基金から繰り入れることにより収支の均衡を図っています。こうした状況から、本計画期間中の財政効果の目標額は8億円と設定しています。

(2) 新たな財政計画の策定について

- ・昨年12月に新たな財政計画（資料2参照）を策定しました。
- ・新たな財政計画では、計画期間中の財源不足額は約32億円となっています。

< 計画期間中の財政収支・・・令和6年度策定の財政計画から抜粋 >

(単位：百万円)

年度	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	合計
歳入①	93,199	90,464	89,790	87,895	86,022	447,370
歳出②	94,199	91,142	90,320	88,551	86,373	450,585
差引①－②	△1,000	△678	△530	△656	△351	△3,215
基金繰入額 (収支不足額)	1,000	678	530	656	351	3,215

(3)今後の検討課題について

- ・行財政改革によって得られる財政効果の目標額は、令和3年度に策定した財政計画の収支不足額が約7億6千万円であったことから8億円と設定していましたが、今年度策定した財政計画では、収支不足額が約32億円と、大きく乖離が生じる結果となりました。
- ・この結果を受け、財政効果目標額の設定の見直しについて検討していく必要があります。

2. 施設使用料の検討

(1)定期的な使用料の見直しについて

- ・体育館などのスポーツ施設やホールなどの文化施設の施設使用料については、平成27年度に改定し、その後は据え置きとしていました。
- ・平成27年度の改定以降、施設の運営状況などを勘案しながら使用料の定期的な見直しを行っています。
- ・見直しのタイミングであった令和5年度の検証では、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度以降に収入が減少した施設が多く、平常時とは異なる運営状況にあったことなどから、施設使用料の改定を見送ることとしました。

(2)今後の検討課題について

- ・施設の維持管理費は、物価高騰や賃金の上昇などの影響により年々増加しています。こうした状況を受け、施設運営は非常に厳しい状況にあることから、令和5年度以降の実績や社会情勢などをふまえ、令和8年4月の改定を目途に再度の検証を行うこととしています。